

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月23日

【評価実施概要】

事業所番号	0175800309		
法人名	医療法人 やわらぎ		
事業所名	グループホーム 鶴城の郷		
所在地	空知郡南幌町南18線西11号 電話 011-378-5601		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年 3月19日	評価確定日	平成20年4月14日

【情報提供票より】(20年 2月 4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 10月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18人	常勤11人、非常勤7人、常勤換算10.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての	～1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	無		冬季暖房費 5,000円
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	退去時全額返済
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,050 円		

(4) 利用者の概要(3月19日現在)

利用者人数	18名	男性 2名	女性 16名
要介護1	1名	要介護2	11名
要介護3	2名	要介護4	4名
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 84.6歳	最低 66歳	最高 92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人やわらぎ、みどり野医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの立地は、町の市街地区から離れた田園豊かな中で、地域密着型のホーム運営は困難な状況にありますが、管理者とスタッフは、地域の方々にホームへ来ていただきながら交流の場を広げようと試行錯誤を繰り返しています。法人本部は病院のほか多種にわたる福祉施設を擁しており、利用者の体調維持など手厚いバックアップ体制が構築されています。毎日行なわれる夜勤者による利用者の夜間の状況報告は本部の看護師の元に送られ適切な指示が得られています。ホームが1階の平屋で二つのユニットが繋がりが、利用者も自由に相互の行き来をするなど交流をしており、ゆったりとした暮らしが続けられています。家族への報告など細やかな気配りが見られ、利用者一人ひとりのアルバムも作られて家族に喜ばれています。これらはスタッフ間の意思の疎通の良さと思慮し、今後も継続した温かなホーム作りを期待します。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題である、個別記録の充実及び鉛筆での記録、刃物の夜間管理、利用者の金銭管理と家族への報告について、全ての課題がスタッフ全員で取り組み改善されています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 各ユニットの管理者は、自己評価の各項目についての意見、反省を含めスタッフに問いかけながら作成しています。自己評価の中では14項目の取り組みが出されており、改善計画シートの活用により外部評価と合わせての取り組みが期待されます。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、これまではホームの活動報告の中で、利用者の状況、介護計画の見直し作業、月ごとの行事内容、スタッフ研修、などが報告され木目細やかな内容を見ることができですが、自己評価及び外部評価の開示による意見交換などが不足しており、それらの取り組みによりサービスの質の向上に役立てるよう期待します。また、会議のメンバーを拡大して流動的かつ斬新な会議となるよう併せて期待します。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 管理者及びスタッフは、家族が気軽に話しかけてくれることが大切と考え、親しい関係作りを実践しています。「鶴城だより」やスタッフの「手書きおたより」など、利用者の身近な情報を提供することで家族の信頼を得ながら、苦情、不安への対応をしてホーム運営に役立てようと考えており、今後も継続した取り組みを期待します。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームの立地条件から地域との連携は難しい点がありますが、ホームの広い畑を耕運機で協力してくれる農家の方や農作業の傍ら立ち寄ってくれる方など徐々に地域に根付いてきつつあります。管理者とスタッフはホームの行事などに地域の方々に招待して利用者との交流を図るよう努力しており、更に災害時の対応にも地域の方々の協力を得るなどの連携の深まりを期待します。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の運営理念には「地域社会の一員としての生活・・・」が盛り込まれています。グループホームでは、法人理念とは別にケア理念が独自に作られており、ホーム内の数箇所に掲示されています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はパンフレットに掲載されて、周知されるようにしています。管理者及びスタッフは申し送りやミーティングで、また、日々のケアでの確認をしながら実践しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	住宅街から掛け離れた農村地帯の立地の中で、地域との付き合いは困難な点もありますが、地域の催事などにはできる限り参加をしています。ホームでは出かけるだけでなく、地域の住民をホームでの行事などに招待しながらホームを中心とした地域の交流に努めています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価に対する関心は深く、前回の評価での改善事項については、全ての点で取り組みが行なわれ改善されています。また、今回の自己評価の作成についても、時間をかけてスタッフ間での気づきを出し合いながら作成されています。		

南幌町 グループホーム 鶴城の郷

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に会議が開催され、利用者の暮らしを含めたホームの状況報告や催しの結果及び予定などが報告されていますが、自己評価及び外部評価の内容を開示しての意見交換が見られません。また、メンバーの固定化による会議内容の手狭さの傾向がみられます。	○	自己評価及び外部評価の内容を会議に提示しながら、ホームとしての取り組み経過を報告するなど、サービスの質の向上に向けた協議を望みます。また、より多くのタイムリーな意見交換ができるようメンバーを拡大するなど、流動的かつ斬新な会議への取り組みを期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の保健師や居宅サービス支援事業所などからの入居の照会や、利用者の状況確認など町関係者との関わりは多く、町主催の福祉に関する行事にも参加し協力をしています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の毎月の金銭管理報告に併せて、毎月発行される「鶴城だより」のほか、スタッフが作る「手書きお便り」を家族のもとへ送付して、好評を得ています。また、家族が訪問した際には利用者一人ひとりのアルバムを見て頂くなど、スタッフは出来るだけ話し合いの場を持つようにして報告をし意見などを聞くよう努めています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見などを聞くための「ご意見箱」が設置されていますが、あまり利用はされていません。管理者とスタッフは家族が訪問時に直に意見や要望を伺う努力をしながらホームの運営やサービスの質の向上に役立てようとしています。また、苦情などのホーム窓口と外部の窓口もお知らせしています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人グループ内では少数の異動がありますが、グループホームのスタッフについてはあまり異動がありません。異動が生じた場合でもグループホーム間の交流を盛んに行なうなど、利用者との馴染みが継続できるよう配慮がされています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人(本部)では、学習委員会があり月1回の勉強会を開催、また、地域支援部で行なわれるリハビリ訓練、認知症研修に出席してスタッフのスキルアップに努めています。外部研修は経験に応じた参加を促しています。更に資格取得を目指すスタッフに対しては受験日のシフト移行など全員でバックアップするようにしています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の4町で組織された介護スタッフのネットワークでは、定期的な学習会のほか相互の事業所見学も行なって交流を図りながらサービスの向上に役立てています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム利用の申し込みを受けた際には、ホーム見学をして体験をして頂くほか、管理者が自宅訪問など家族と綿密な打ち合わせと、かかりつけ医からの情報によりホームでの暮らしへの移行が円滑に行くよう努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者ができることは、スタッフも一緒となっていくこととしています。利用者から菜園作業の手順や調理の味付けを教えて頂くなど学ぶ面も多々あります。時折、利用者からの労いの言葉があるなど共に支えあう関係ができています。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の暮らしの中から、利用者は思いや意向を把握できるよう自己のスキルアップに努めています。また、家族からの情報も大切にしながら本人らしい暮らしができるよう、スタッフ間でも情報を共有できるようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者を担当するスタッフが日々の生活記録からモニタリング、生活支援計画がカンファレンスで討議され介護計画作成に反映されています。その間、家族への提示や相談した事項も計画に盛り込まれています。基本的には利用者の担当スタッフがきめられています。全スタッフが共有して支援を可能にしています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っていますが、利用者の状況によっては、かかりつけ医の指導も経て見直しています。また、利用者の夜間状況に付いて本部の看護師へ毎日報告しており、適切なアドバイスも得て見直しに反映しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が対応ができない場合の病院への送迎や行き付けの美容院送迎、家族に対する交通の利便供与などが行なわれて多機能を生かした支援がされています。また、本部関連施設で行なわれる音楽療法、数種のリハビリなどに参加するなど柔軟な支援がされています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携の医療機関から毎週2回の訪問診療があるほか、医療に関する訪問看護ステーションへの相談も行なわれています。協力歯科医もいますが、歯科衛生士の資格を有するスタッフの指導を受けた口腔内ケアが行なわれています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化対応・終末期ケア対応指針」があり、入居の際に家族に説明が行なわれ利用者と家族の意向を伺っています。また、利用者が重度化した際には、家族とかかりつけ医を交えた話し合いが持たれています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に話しかける際には、利用者の誇りやプライバシーを損なうことがないように常に自分がその立場になった場合を想定して配慮をしています。また、会報などに使用する写真、氏名など個人情報の掲載は前もって利用者及び家族に同意書を頂いています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者やスタッフにとって、一番のヒヤリに対応した転倒防止体操や嚥下体操は利用者全員で行ないますが、それ以外は利用者一人ひとりのゆったり、のんびりとした暮らしが続けられています。居室でのお経読み、書道、塗り絵、裁縫など思い思いの時間で過ごされています。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は、二つのユニットとも同じで食材も共有していますが、調理はそれぞれで行なわれています。利用者の好みやスタッフの家庭の味で微妙な違いがあります。スタッフと一緒に食事は利用者にとって楽しい時間となっており、食後の下膳は各自が行ない食器洗いも楽しんでいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきに入浴を楽しんでもらうよう勧めています。時間帯はある程度決まっていますが、希望と体調によっては夕食後の時間帯でも入浴されています。利用者によっては段差のない隣のユニットの大き目のバスがお好みで利用する場合もあり、入浴を介したユニット間の交流に役立っています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内の役割などは、出来ること、できそうなことへの挑戦から自然に分担ができています。廊下の掃除や調理の手伝い、洗濯物たたみ、夏季にはベランダでのうたた寝や畑仕事、音楽療法への参加など、それぞれが楽しみごと、気晴らしを見つけおり、スタッフは個別に支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季の散歩や草取りのほか、月に一度の外出行事を設けて参加して頂いています。デイサービスへ遊びに行き週1回開設される喫茶コーナーを楽しまれる利用者、スタッフと共にドライブに出かけるなど、閉じこもりを避けての外出支援が行なわれています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	二つのユニットの玄関とも昼間の施錠はしていません。廊下でつながる両ユニットのスタッフが利用者の行動を見守り、気配りがされています。夜間のみ施錠しています。		

南幌町 グループホーム 鶴城の郷

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災などの災害対策として、日中想定避難訓練が年1回行なわれていますが、回数的にも不足です。また、スタッフの少ない夜間を想定した避難訓練は行なわれていません。	○	農作地域の畑の中にたたずんで作られたホームであり、災害時の避難訓練は可能な限り何度でも行いたいものです。消防署の協力を要請しての避難訓練、また夜間を想定しての訓練など地域の消防団にも声掛けが必要であり取り組みを期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は本部地域支援部の栄養士による栄養バランスのチェックがされています。また、食事の量、水分の摂取量も利用者の体調を考慮しながら支援が行なわれています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	旧建物を改造したため一部のユニットに手狭な浴室があるものの、他の共用空間は広く開放感に満ちています。ホームの周りは全て田園風景が広がり、夏季にはウッドデッキのベンチで居心地良いひと時を、また広いリビングでの利用者同士の語らい、など生活感や季節感を上手に取り入れられています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、利用者が使い慣れた家具備品が持ち込まれており、書斎的な雰囲気もあり利用者の人柄がわかる居室も見ることができます。仏壇、本棚、観葉植物の鉢物、執務の机と椅子など利用者が安心して暮らせる空間となっています。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。